



第 56 期 報 告 書
平成21年4月1日 → 平成22年3月31日

C r e a t i v i t y a n d I n n o v a t i o n



ご挨拶

株主ならびに投資家の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より当社事業へのご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

株式会社ルネサスデバイス販売との統合により、株式会社ルネサスイーストンとして新たなスタートを切ってから1年が経過しました。現在、当社が属する半導体業界は、世界同時不況による打撃からの回復途上にあるものの、引き続き予断を許さない状況が続いております。こうした中で当社は、企業理念の基本に掲げる「創造と革新」の実践により、お客様のビジネス拡大に寄与していくことを通じて、自らの着実な成長を遂げてまいります。

ここに当社第56期（平成21年4月1日～平成22年3月31日）の営業状況および業績についてご報告させていただきます。厳しい事業環境の中、当期の連結業績は営業損失を計上する結果となりましたが、最終利益においては黒字回復を果たし、下半期以降の営業状況には回復傾向が鮮明に現れております。今後はさらなる市場の深耕と営業力の強化により、早期の業績回復と安定的な業容の拡大を目指してまいります。

取締役社長

大谷浩美

新中期経営計画「PROJECT “R”」をスタート。売上1,000億円企業への復活を成し遂げ、さらなる業容拡大を目指してまいります。

Q1 ルネサスデバイス販売との統合から1年が経過しました。この間の取り組み状況についてお聞かせください。

A. 統合初年度として取り組んだ大きな課題は、「人的融合」です。統合以前、前期末の当社従業員数は約250名でしたが、ルネサスデバイス販売からの約130名と特約店ビジネス開始に伴いルネサス販売より新たに35名が加わり、その後の増員を経て、当期末現在の従業員数は一気に約460名に拡大しました。数社から形成される様々な経歴を有する者同士が一体となって、厳しい事業環境を乗り越えていくためには、融和融合の精神で相手の企業文化を理解しつつ、目的を共有する強い絆が必要です。

当社では、まずお互いの「人」を知ることがシナジー創出のベースとなると考え、経営陣と課長職以上の社員によるミーティングや全社員研修会の定期開催、本部単位での決起大会などを実施し、社内での一体感を高めつつ、会社が目指すビジョンの共有・浸透を図りました。こうした取り組みは、現在も継続して行っています。

経営統合は事業規模の拡大や販売効率の改善とともに、営業面における情報力の強化といったメリットももたらしています。お客様の数がほぼ倍になったことに伴い、得られる情報量も増え、営業戦略に効果的に活かすことができるようになりました。

なお当社は現在、平成23年1月からの稼働を目処に、より高度な営業効率化に向けた新ITシステムの導入を進めています。今後はこの新システムの運用により、営業面、管理面、双方でのシナジー創出を加速していきます。

Q2 半導体関連市場の回復状況など、当期の事業環境はいかがでしたか？

A. 半導体関連市場を全般的に見ると、前期から続いた世界同時

不況の影響による需要減少が第2四半期までに概ね底打ちし、下半期からは回復傾向が本格化しはじめました。特に第4四半期は好調に推移しました。市場別には、まず自動車分野がエコカー減税の導入や中国での販売拡大に牽引されて上半期から回復を示し、それに続いて、懸念していた産業分野も下半期から復調に向かいました。また、民生分野も下半期以降は堅調に推移しています。

これらの市場の急回復に対応し、減産体制をとっていた半導体メーカーが物量面で即応できるよう、当社ではメーカー側に対する市場情報のフィードバックを積極的に進めていきました。これによって、当社はスムーズな供給体制をとることができ、お客様からの信頼獲得につながりました。

一方、パチンコ業界を中心とするアミューズメント分野については、依然として低迷が続いています。パチンコホール数や消費金額の減少など、市場の縮小傾向に加えて、遊技機のリユースも拡大しており、液晶表示装置などの新たな需要拡大につながる動きが乏しくなっています。

海外の状況については、今のところ自動車分野・産業分野ともに中国の伸びに支えられており、一極集中の様相となっています。当社としては今後、欧米市場への対応、特に北米展開を視野に入れていく必要があると考えており、この4月からプロジェクトを立ち上げました。

Q3 当期の営業における取り組みと成果についてお聞かせください。

A. まず、重点分野である自動車分野および産業分野の売上シェア拡大に向けて、マイコンを中心とした拡販に注力すると共に、将来の受注獲得につながるデザイン・インの展開を強化していきました。デザイン・インとは、お客様の技術陣との折衝機会を得て、共同開発

や技術提案を通じ、製品の設計段階から商材の受注確保に向けたアプローチを行うことです。当期は3,494件の目標設定に対して、3,878件のデザイン・インを達成し、今後の受注拡大への布石としました。

また、ルネサス製品、日立グループ製品に次ぐ3本目の柱となるCSB(カスタマー・サティスファクション・ビジネス)の成長に向けて、Inphi社製品、Payton社製品、IST社製品など新商材の拡販を進めていきました。当期のCSBによる売上高は約37億円となりました。

さらに下半期からは、ルネサス販売の特約店業務を一部当社に移管の上、特約店8社との契約を締結し、特約店ビジネスのスムーズな立ち上げと、営業サポートによる売上拡大に努めていきました。

当期の連結業績は、売上高655億96百万円(前期比45.5%増)、営業損失8億11百万円(前期は1億43百万円の損失)、経常利益2億23百万円(前期比352.7%増)、当期純利益2億56百万円(前期は32百万円の損失)となりました。なお、合併に伴い「負ののれん」が発生しており、その償却による7億5百万円の営業外収益を計上しています。

※ 上記の前期比較においては、合併前のルネサスデバイス販売による前期実績を合算していません。

Q4 新中期経営計画「PROJECT “R”」についてご説明願います。

A. 当社はこの4月より、中期3カ年経営計画「PROJECT “R”」をスタートさせました。「R」は、「Rising(上昇)・Revival(復活)・Revolution(革命)」を示しています。

「PROJECT “R”」の目的は、「創造と革新」の理念のもとに万全な経営基盤を確立し、安定的な利益の確保と「売上1,000億円企業」への復活を果たすことです。また、「東証上場」の早期実現を掲げて

中期経営計画

PROJECT “R”

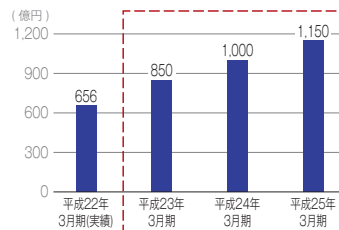
Rising・Revival・Revolution

基本方針

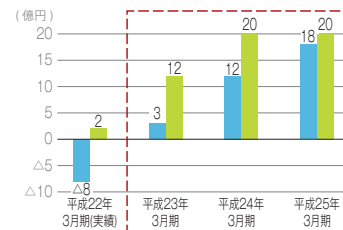
「創造と革新」の理念のもと、万全なる経営基盤を確立し、安定的利益確保と「売上1,000億円企業」への復活を成し遂げ、早期に「東証上場」を実現する。

売上・利益計画

売上(連結ベース)



収益(連結ベース)



います。数値目標（連結）としては、「売上1,000億円企業」を計画2年度目の平成24年3月期に達成し、最終年度の平成25年3月期には、売上高1,150億円、営業利益18億円、経常利益20億円を目指します。そして、これらの目標を実現する過程において、自動車分野および産業分野を主軸とした収益構造を強化しつつ、デザイン・イン活動の推進や海外ビジネスの拡大、CSB新商材の販売体制強化、成長分野への積極参入といった事業戦略によるシフトを実行していきます。

計画初年度となる次期の連結業績については、売上高850億円、営業利益3億30百万円、経常利益11億50百万円、当期純利益6億60百万円を見込んでいます。特に営業利益の黒字回復については、次期最大の課題として必達を目指します。

Q5 今後の事業戦略における具体的な取り組みについてお聞かせください。

A. 自動車分野の売上拡大については、デザイン・イン活動の推進を通じて、より多くの電子部品需要が見込めるEV・HEV（電気自動車・ハイブリッド車）市場の拡大に向けた布石を打っていきます。産業分野の売上拡大策としては、需要の急回復に対応した物量供給サポートによってお客様の信頼を確保しつつ、マイコンを中心としたソリューション展開と汎用半導体の拡販を進めていく考えです。

デザイン・インについては、単に件数を追求するだけでなく、その提案がどれくらい売上貢献につながるか、といった見込みとともに注力していく「量から質」への転換を進めていきます。

また、今後は海外ビジネスの拡大を図り、当期の売上実績である56億円から、3年後（平成25年3月期）の100億円達成に向けて邁進していきます。そのために、海外要員の育成と駐在人員の拡充を進め、ローカルスタッフ陣容を強化していきます。さらに、先に申し上げましたが、欧米など未対応市場への進出を検討していきます。

もう一つ、CSB新商材についても100億円の目標を掲げています。当期の売上実績である37億円から、3年後の100億円（チャレンジ目標）達成を目指し、CSBをルネサス製品、日立グループ製品に次ぐ3本目の柱として確立したいと考えています。その実現に向けて、これまで技術本部管轄としていた「CSB営業技術部」を、営業本部管轄による「特販営業部」および「CSB技術部」として改編し、機動的な営業活動によって実績を早期に確保していきます。そこでは、Inphi社製の光製品やレジスタバッファIC、Payton社製のプレーナ型トランス、IST社製の高精度温湿度センサー、その他開拓中の新商材を積極的に

拡販していきます。また、CSB新商材については、特約店8社（次期より9社）との連携による販売チャネルの拡販も積極化していきます。

そして、当社はこうした取り組みと並行して、技術開発力の強化を図り、お客様のビジネスをサポートするソリューションを提供していくことで、お客様とのより強固な信頼関係を築き上げていきます。

Q6 新たな成長分野への参入については考えていますか？

A. 当社事業の中長期的な発展には、エコ技術を核とする成長分野への参入が不可欠であると認識しています。具体的には、「EV・HEV」「LED機器」「太陽光発電」「スマートグリッド」「エコキュート」「風力発電」「家庭内医療機器」「充電設備」の8分野を対象として考えており、現在のところ当社は、これらの分野において事業展開する36社のターゲット顧客を絞り込んでいます。今後、この成長分野への積極的な参入に向けて経営資源を投入し、新たな発想・新たな視点によるビジネスチャンスを切り拓いていく考えです。

Q7 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A. 当期の期末配当につきましては、業績の落ち込みからの回復途上にあることを鑑み、前期に引き続き1株当たり5円とさせていただきます。次期の期末配当につきましては、同7.5円に増配させていただく予定です。また、できるだけ早期に10円復配を果たすべく、全社一丸となって努力してまいります。

本年4月1日付で、当社の主要株主である株式会社ルネサステクノロジは、NECエレクトロニクス株式会社との経営統合により、ルネサスエレクトロニクス株式会社として新たに発足しました。半導体売上高で世界シェア3位、マイコン（MCU）売上高で世界トップシェアを占める大手半導体メーカーの誕生により、当社事業の商流にも大きな変化が生じることは間違いないと思われます。現時点で具体的な動向は未定ですが、「創造と革新」の実践を通じて産業の発展に寄与するという当社の理念に変わりはありません。当社は今後、お客様とのつながりをさらに強めていくために、技術部隊の活性化を図り、より高い付加価値を持ったソリューションの提供に努めてまいります。そのことを通じて、販売会社としての存在価値を高めて続けていきたいと思っております。

株主の皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

当期の業績のポイント

1. 売上高

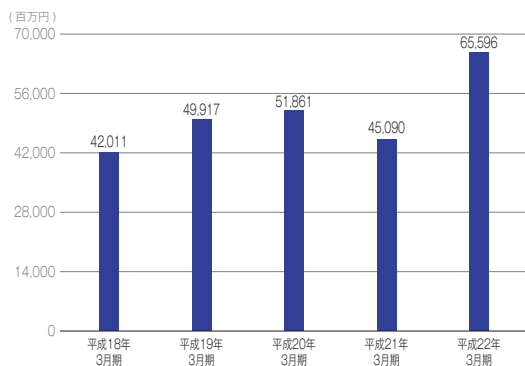
09/1Qをボトムとして2Qより自動車分野、4Qより産業分野が急回復し、1Qと4Q比較では165%の伸長となり、年度でも対前年比145%の伸長となった。

2. 経常利益

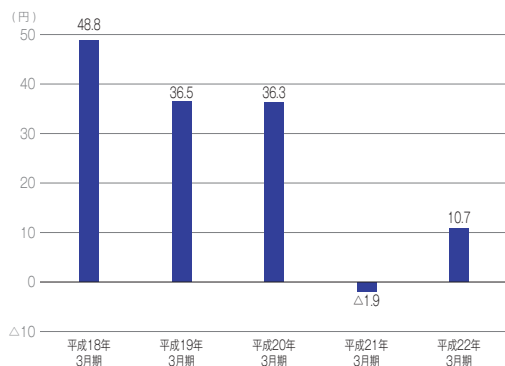
損益面では経費削減の諸施策により販売費、一般管理費の圧縮、及び負ののれん、法人税等調整が主要因となり経常利益、当期純利益とも黒字化を確保。

グラフで見るルネサス イーストン

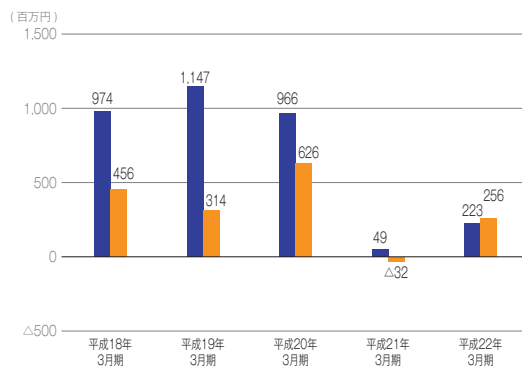
売上高



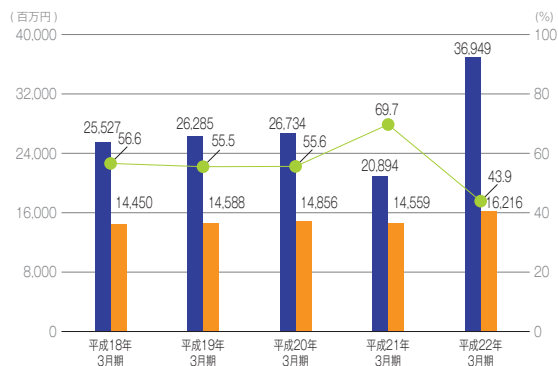
1株当たり当期純利益



経常利益 当期純利益



総資産 純資産 自己資本比率



事業紹介

自動車分野

売上高 **195** 億円

事業内容

ルネサスエレクトロニクスが注力している分野であり、高性能マイクロコンピュータ、パワーMOSFET (power metal-oxide-semiconductor field effect transistor)、MSIG (Mixed Signal) を中心に、確実に成長していく分野です。

インフォメーション&
エンターテイメント

情報

- ナビゲーション
- オーディオ
- カメラシステム

セーフティ

シャーシ

パワートレイン

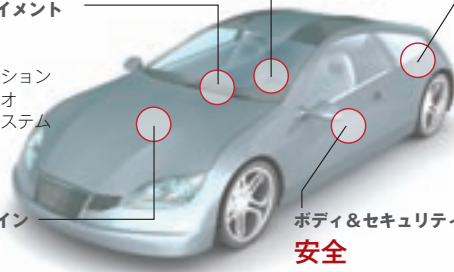
環境

- エンジン
- ハイブリッド
- AT (オートマチック)

ボディ&セキュリティ

安全

- エアバック
- ABS (anti-lock brake system)
- 電動パワーステアリング



産業分野

売上高 **205** 億円

事業内容

ルネサス製品をコアに他半導体製品等の高性能なソリューションを提供し、高品質、長期安定供給を実現しながら事業注力している分野であります。

高品質／高性能／超高速動作(メガ帯域)



民生・アミューズメント分野

売上高 **256** 億円

事業内容

グラフィックス、セキュリティ、ネットワークなど、多彩なご要求に対し、適切な表示デバイス、ASIC等を提供いたします。



各分野へ表示デバイス等の提供



携帯分野へのマイコン／ASIC等の提供

Pickup New Products 新製品のご紹介

Inphi

**光通信分野に強い
高速・高性能アナログICメーカーです。**

ルネサスイーストンでは光通信モジュール製品と合せ、加速する通信分野へソリューションを提供いたします。

主な用途

ROSA（光受信モジュール）、光通信トランスボンダ、光計測器、高速シグナル測定器、サーバ用RDIMM

製品ラインナップ

TIA、モジュレータドライバ、ハイスピードロジック、RDIMM用レジスタバッファ



Payton

**小型・薄型、高効率の
プレーナ型トランスメーカーです。**

EV/HEV、ソーラーパネルなど、今後求められる省スペース、高効率電源にPayton製品を提案いたします。

主な用途

EV（電気自動車）、HEV（ハイブリットカー）、カーエアコン、薄型TV、インバータ、ソーラー発電、携帯基地局、他大容量スイッチング電源

製品ラインナップ

プレーナ型トランス、インダクタ



IST

温度、湿度、流量センサ専門メーカーです。

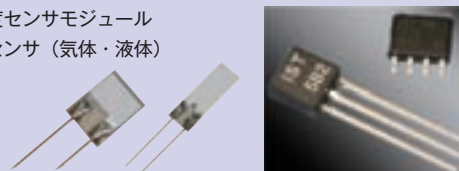
高精度、高速、優れた耐環境性により、民生から産業まで分野を問わず幅広いアプリケーションへご使用いただけます。

主な用途

EV（電気自動車）、HEV（ハイブリットカー）、カーエアコン、携帯基地局、データロガー、コスメチック

製品ラインナップ

プラチナ/ニッケル薄膜温度センサ
薄膜湿度センサ、湿度センサモジュール
温湿度センサモジュール
流量センサ（気体・液体）



連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	当連結会計年度 平成22年3月31日現在	前連結会計年度 平成21年3月31日現在
資産の部		
流動資産	32,317	17,052
現金及び預金	1,100	686
受取手形及び売掛金	24,285	10,998
有価証券	40	40
商品及び製品	6,521	4,744
未収還付法人税等	—	184
未収消費税等	—	62
繰延税金資産	161	93
その他	221	245
貸倒引当金	△11	△3
固定資産	4,632	3,841
有形固定資産	1,862	1,782
建物及び構築物(純額)	443	385
車両運搬具(純額)	4	7
工具、器具及び備品(純額)	51	52
土地	1,347	1,337
リース資産(純額)	15	—
無形固定資産	304	74
投資その他の資産	2,465	1,984
投資有価証券	643	630
従業員に対する長期貸付金	17	21
敷金及び保証金	519	782
繰延税金資産	1,117	419
その他	188	164
貸倒引当金	△22	△34
資産合計	36,949	20,894

	当連結会計年度 平成22年3月31日現在	前連結会計年度 平成21年3月31日現在
負債の部		
流動負債	18,588	6,118
支払手形及び買掛金	16,546	5,418
短期借入金	974	12
1年内返済予定の長期借入金	99	—
リース債務	3	—
未払法人税等	58	6
未払消費税等	60	1
繰延税金負債	0	—
本社移転費用引当金	—	50
その他	843	628
固定負債	2,144	216
長期借入金	141	—
長期預り保証金	161	43
リース債務	11	—
退職給付引当金	253	76
役員退職慰労引当金	97	97
負ののれん	1,410	—
その他	69	—
負債合計	20,732	6,334
純資産の部		
株主資本	16,315	14,703
資本金	3,433	3,433
資本剰余金	5,001	3,652
利益剰余金	7,883	7,714
自己株式	△2	△96
評価・換算差額等	△98	△144
その他有価証券評価差額金	54	△14
繰延ヘッジ損益	—	0
為替換算調整勘定	△153	△129
純資産合計	16,216	14,559
負債純資産合計	36,949	20,894

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当連結会計年度	前連結会計年度
	自平成21年4月1日 至平成22年3月31日	自平成20年4月1日 至平成21年3月31日
売上高	65,596	45,090
売上原価	60,548	41,332
売上総利益	5,048	3,758
販売費及び一般管理費	5,859	3,901
営業損失(△)	△811	△143
営業外収益	1,057	224
営業外費用	22	32
経常利益	223	49
特別利益	159	23
特別損失	362	155
税金等調整前当期純利益 (損失:△)	20	△83
法人税、住民税及び事業税	59	46
法人税等調整額	△295	△96
法人税等合計	△235	△50
当期純利益(損失:△)	256	△32

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当連結会計年度	前連結会計年度
	自平成21年4月1日 至平成22年3月31日	自平成20年4月1日 至平成21年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,796	△420
投資活動によるキャッシュ・フロー	80	△353
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,593	△138
現金及び現金同等物に係る換算差額	△41	△68
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	242	△980
現金及び現金同等物の期首残高	726	1,707
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	170	—
現金及び現金同等物の期末残高	1,140	726

会社概要 (平成22年6月29日現在)

会社概況

商号	株式会社ルネサス イーストン
英文商号	RENESAS EASTON Co.,Ltd.
本社所在地	〒101-0048 東京都千代田区神田司町二丁目1番地
従業員数	457名
創立	昭和29年12月23日 (商号変更：平成21年4月1日)
資本金	34億3,310万円
事業内容	集積回路・半導体素子・表示デバイス 及びその他の電子部品・機器等の販売、 ソフトウェア開発及び電子機器の開発・設計

ホームページのご案内

<http://www.rene-easton.com/>



当社のホームページでは、会社情報、IR情報、商品情報など様々な最新情報を掲載しております。是非、ご覧ください。

事業所

[国内]

立川営業所	東京都立川市富士見町一丁目34番9号
熊谷営業所	埼玉県熊谷市筑波三丁目4番地
富士吉田営業所	山梨県富士吉田市ときわ台二丁目7番2号
甲府営業所	山梨県甲府市丸の内一丁目17番10号
高崎営業所	群馬県高崎市栄町16番11号
三島営業所	静岡県三島市一番町15番19号
大阪営業所	大阪府大阪市淀川区西宮原一丁目5番28号
茨城営業所	茨城県ひたちなか市堀口832番地2
福岡営業所	福岡県福岡市博多区博多駅前四丁目1番1号
名古屋営業所	愛知県名古屋市中村区椿町15番21号
福島営業所	福島県福島市大町7番11号
物流センター	埼玉県さいたま市南区文蔵一丁目18番9号

[海外]

瑞薩易事通（上海）貿易有限公司
台湾瑞薩易事通股份有限公司
瑞薩易事通（香港）有限公司
RENESAS EASTON (THAILAND) CO.,LTD.
RENESAS EASTON (SINGAPORE) PTE.LTD.



株式情報 (平成22年3月31日現在)

役員

代表取締役社長	大谷浩美
取締役副社長	宝田重夫
取締役相談役	福島慎介
取締役	平賀善造
取締役	上野武史
取締役	屋鋪直樹
取締役	岡部昭彦
取締役	石井仁
常勤監査役	山本喜友
常勤監査役	菰田当昭
監査役	田村和己
監査役	小平雅彦

執行役員

上席執行役員 第5営業本部長	渡邊宏
上席執行役員 第4営業本部長	森英樹
上席執行役員 財務本部長	本多和夫
上席執行役員 第2営業本部長	荻島弘康
執行役員 海外営業本部長	金田嘉之

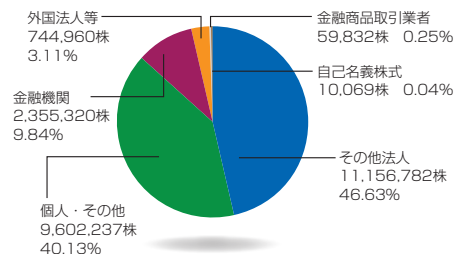
株式の状況

発行可能株式総数	40,000,000株
発行済株式総数	23,929,200株 (うち自己株式10,069株)
株主数	1,198名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
株式会社ルネサステクノロジ	7,182	30.01
福島慎介	2,153	8.99
有限会社エターナル	1,916	8.00
株式会社みずほ銀行	1,127	4.71
横山淳子	874	3.65
株式会社日立製作所	612	2.55
株式会社三菱東京UFJ銀行	532	2.22
株式会社南日本銀行	482	2.01
ルネサスイーストン従業員持株会	443	1.85
ドイチェバンクアーゲー ロンドン ビービーノトリティー クライアーツ 613	443	1.85

所有者別分布状況



株主メモ

決算期	毎年3月31日(年1回)
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	大阪証券取引所(ジャスダック市場)
公告の方法	日本経済新聞

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式に関するお手続きについて

●特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取(買増)請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定※	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	[手続き書類のご請求方法] ○音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ○インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufj.jp/daikou/

※ 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

●証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
○上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	



株式会社 **ルネサスイーストン**

〒101-0048 東京都千代田区神田町二丁目1番地
TEL (03) 6275-0600 FAX (03) 6275-0610



環境保全のため、植物油インキを使用して印刷しています。